

ちばセンセイの健康ワンポイントアドバイス

明けましておめでとうございます。4月に開業してからあっという間の9か月でした。地域に根ざした医療を目標に、これからも邁進して参ります。

さて今回は、高血圧症の薬についてです。降圧薬の主流は大きく分けて4つあります。カルシウム拮抗薬（以下 Ca 拮抗薬）、アンジオテンシン変換酵素阻害薬（以下 ACE 阻害薬）及びアンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬（以下 ARB）、少量の利尿薬、 β 遮断薬があります。

Ca 拮抗薬は血管の平滑筋を弛緩させる働きがあるので、血管が緩んで拡張します。その効果で血圧が下がります。水撒きのときのホースをイメージしてみてください。先を細めると、遠くまで水が届きますね。それだけ勢い（水圧）が高くなるということです。

アンジオテンシンⅡという物質は血圧を上げる働きがあるのですが、ACE はアンジオテンシンⅡを作る酵素の働きを阻害する薬で、ARB はアンジオテンシンⅡと結びつく受容体に先に結びつくため、アンジオテンシンⅡの働き（血圧を上げる）を邪魔するのだと考えてください。自動販売機でコーヒーを買うのをイメージしてみてください。千円札しかない場合、先に両替しなければなりません。両替の邪魔をするのが ACE 阻害薬で、ARB は自動販売機の硬貨投入口をゼロテープで塞いで、硬貨を入れられなくするのです。どちらにしてもコーヒーを買うことはできませんね。

利尿薬は体内の水分を尿として体外に放出します。それによって血管内の水分も少なくなります。重い荷物と軽い荷物をイメージしてみてください。当たり前のことですが、重い荷物を押す方が力が必要ですよ。

β 遮断薬は交感神経の β 受容体に結びついて、その働きを弱める薬です。そのため、心臓の収縮力が落ちて、血圧が下がるのです。Ca 拮抗薬や ACE 阻害薬あるいは ARB よりも発売が早かったため、降圧薬の主役であった時期もありましたが、糖尿病や脂質異常症に悪影響を及ぼすこともあるため、今は限られた場合にしか使われなくなってきました。

主流はこの4つですが、それ以外にも α 遮断薬、アルドステロン拮抗薬、カリウム保持性利尿薬、中枢性交感神経抑制薬や古典的な血管拡張薬などもあります。その人の状態に合わせて最も適切な降圧薬を決めるのが医者役割です。次回は、それぞれの薬の特性についてもう少し詳しく説明します。

大楽毛 2-2-27
ちば内科クリニック
院長 千葉 淳
Tel.64-6650